

果樹病虫害発生状況（8月）

1 リンゴ

(1) 斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図1）。

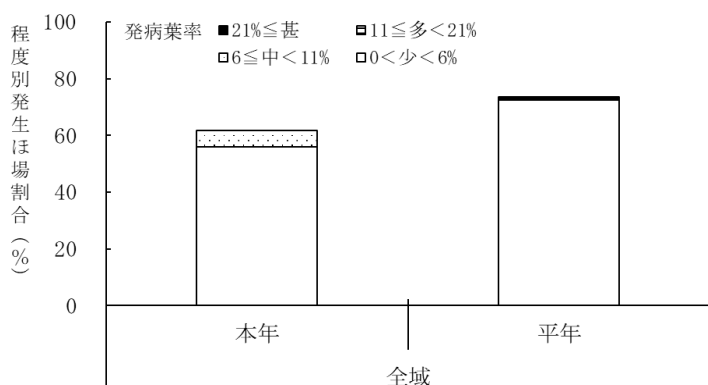


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況（8月下旬）

(2) 褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域でやや高い状況でした（図2）。中晩生種で発生が多い場合は防除を徹底しましょう。

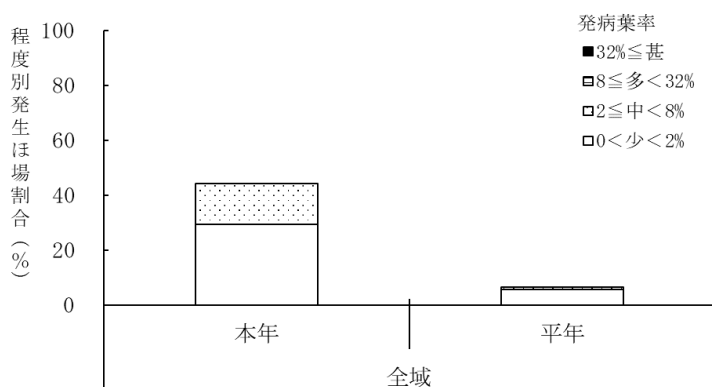


図2 リンゴ褐斑病の発生状況（8月下旬）

(3) 炭疽病

各地方ともに、果実被害は確認されませんでした。

(4) キンモンホソガ

新梢葉での被害発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図3）。

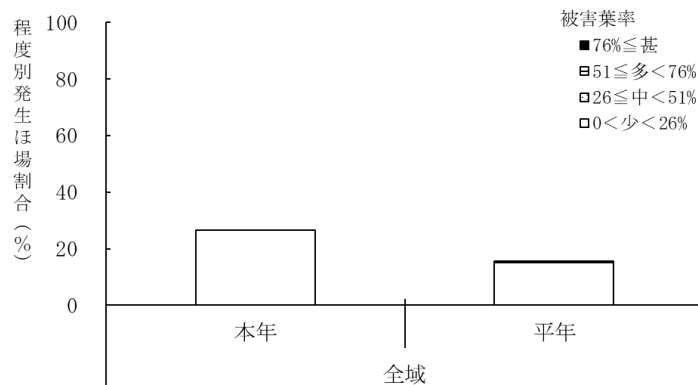


図3 キンモンホソガの発生状況（8月下旬）

(5) シンクイムシ類

果実での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図4）。ナシヒメシンクイによる果実被害は確認できませんでしたが、モモシンクイガによる果実被害を会津で確認しました。

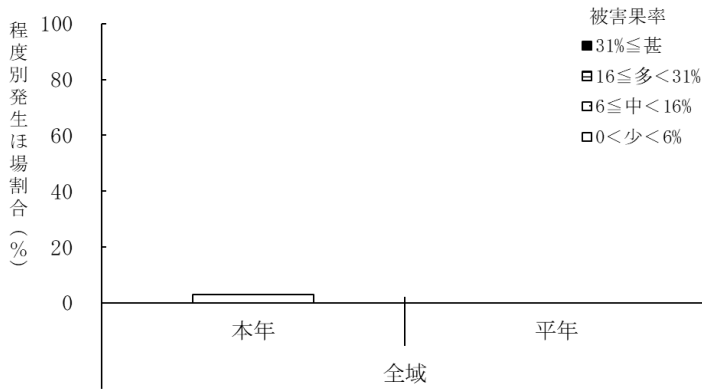


図4 シンクイムシ類の発生状況（8月下旬）

(6) ハマキムシ類

中通りで果実被害が確認されました。果実での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図5）。

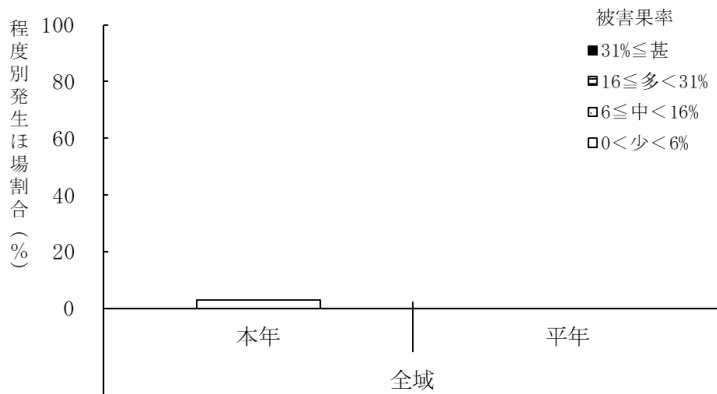


図5 シンクイムシ類の発生状況（8月下旬）

(7) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図6）。園地での発生状況をよく観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

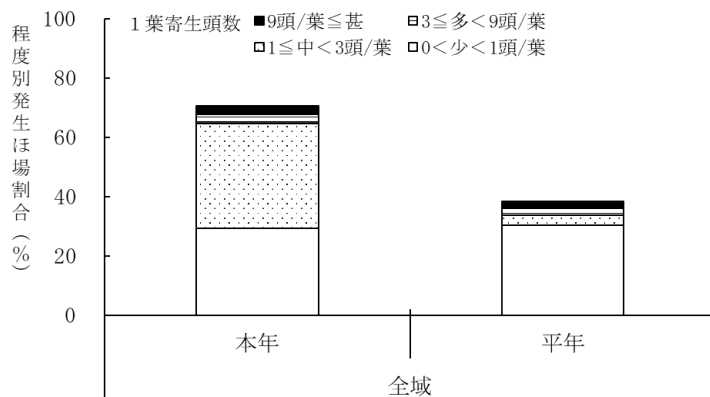


図6 ハダニ類の発生状況（8月下旬）

2 モモ

(1) せん孔細菌病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域でやや高く、発生程度の高いほ場も多く見られました（図7）。
秋期防除を徹底して、越冬菌密度の低下を図りましょう（注意報第7号参照）。

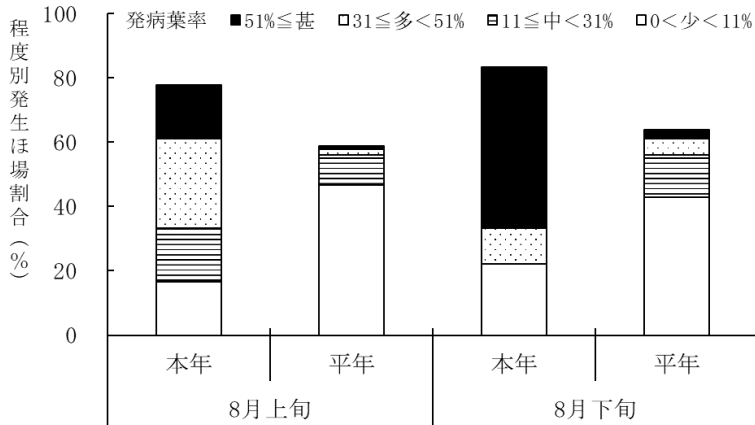


図7 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（8月上旬、下旬）

(2) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年並でした（図8）。発生が多いほ場では、収穫後にも防除を行い、越冬密度の低下を図りましょう。

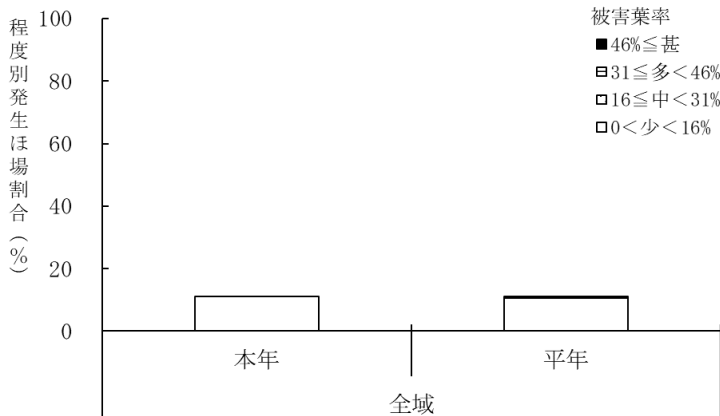


図8 モモハモグリガの発生状況（8月下旬）

(3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、全域で平年並でした（図9）。

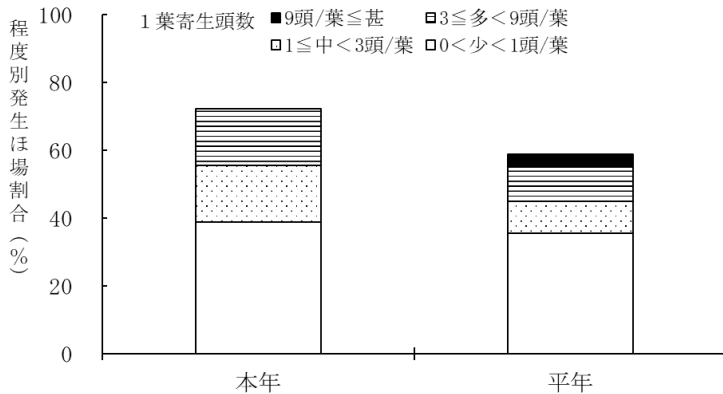


図9 ハダニ類の発生状況（8月下旬）

3 ナシ

(1) 黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、全域で平年よりやや高い状況でした（図 10）。果実での発生ほ場割合は、全域で平年より高い状況でした（図 11）。発生の多いほ場では幸水収穫後に秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

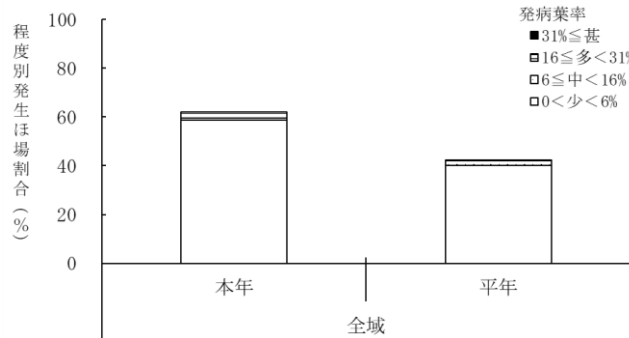


図 10 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（8月下旬）

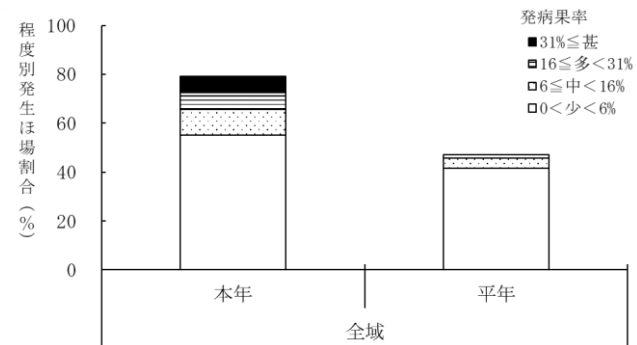


図 11 ナシ黒星病の果実での発生状況（8月下旬）

(2) 輪紋病

各地方ともに、果実被害は確認されませんでした。

(3) カイガラムシ類

各地方ともに、クワコナカイガラムシ、ナシマルカイガラムシによる果実被害は確認されませんでした。

(4) シンクイムシ類

果実での発生ほ場割合は、平年並でした（図 12）。モモシンクイガの果実被害は確認されませんでした。ナシヒメシンクイによる果実被害を浜通りで確認しました。

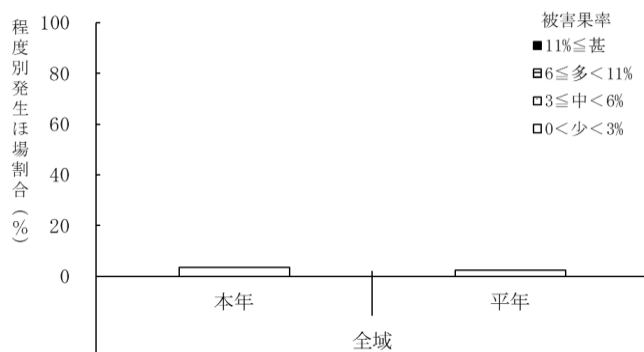


図 12 ナシヒメシンクイの発生状況（8月下旬）

4 果樹共通

(1) カメムシ類

リンゴ、ナシにおける果実被害発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図 13、図 14）。また、フェロモントラップ調査の誘殺数が、複数の地点で例年より多い状況でした。園地での飛来状況をよく確認し、飛来や被害を確認したら速やかに薬剤防除を実施しましょう。

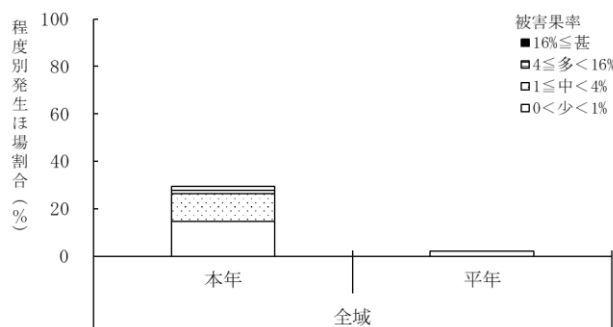


図 13 カメムシ類の果実被害の発生状況（リンゴ）

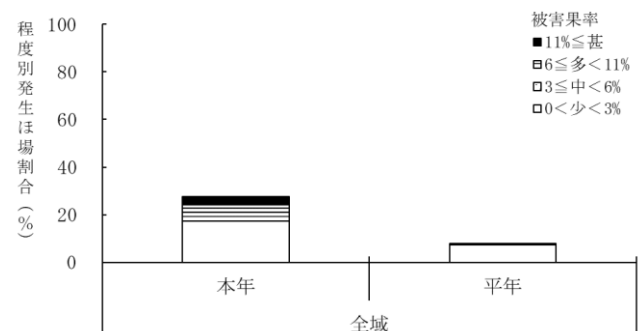


図 14 カメムシ類の果実被害の発生状況（ナシ）